

## 印旛沼流域水循環健全化会議 第3回委員会 議事要旨

日時：2002年10月25日（金） 14：00～16：15

場所：ばるるプラザ千葉 6F 檜の間



### 1. 議事要旨

#### 目標および目標達成の方針について

- ・ 過去に比べ現在では、水田・畑地面積は20%減少し、使用施肥量は減少していると考えられるため、p1-6の図にある「肥料・農薬使用量の増加」とはならないのではないか。肥料使用量のトータル値の変化を検討する必要があるのではないか。（藤井）

ご指摘の通り、農地減少は農地系負荷の減少につながる。しかし、この図は都市・農地などの問題を複合的にとらえたものであり、図の修正は不要である。（虫明）
- ・ 農地整備がなされると、降雨時に畦畔によって水田からの流出が抑制されるので、降雨流出は減少するのではないか。（藤井）

農地整備では排水路整備もされるため、流出が速くなると考えている。（吉田）  
農地整備は、流出増あるいは流出減の両者に効いてくると考えられる。今後明らかとなってくるだろう。（虫明）
- ・ 沼のCOD 内部生産の割合を調べておくと、窒素・リンの削減目標につながっていく。（藤井）
- ・ 農地をくくって考えるのではなく、水田・畑作と畜産を区分して考えるべきである。例えば、畜産が営まれている箇所を把握する必要がある。（藤井）
- ・ 健全な水循環のイメージを皆で共有化すべきであろう。（中村）

目標に掲げている「泳げる水質」が、ビジョンとしては非常にいい。その他の目標のイメージはもう少し具体化していく必要がある。「生き物に優しい」という目標の具体的なイメージを、中村先生から提示していただけないだろうか。（虫明）
- ・ 流域住民が、印旛沼の浄化・水循環の健全化に対してどのように考えているのか、意見を吸い上げる必要があるのではないか。（味埜）

#### 現地調査について

- ・ 南部・勝田川支流タキヤツの上流部で湧水の窒素濃度が高いことを残土処理処分場のためであると考察しているが、残土自身が窒素を含有しているのか確認する必要がある。（藤井）

谷津の背後地には広大な畑地が広がっているため、畑地の影響が考えられる。（白

鳥)

- ・ 対策を考える際の材料となることから、降雨時の水質観測では、懸濁態と溶存態に分けて分析した方が良い。(白鳥)

来年度の検討としたい。(吉田)

- ・ 今回の調査結果は、各流域内での水質の傾向を検討することができ、有効なデータであると感じている。(味埜)
- ・ COD、総窒素、総リンそれぞれで見ただけでなく、総合的に考察する必要がある。(味埜)
- ・ 調査結果をソース(負荷増加要因:発生源)とシンク(負荷減少要因:河道内での吸着・沈降・分解)を区分して整理すると、調査結果が分かりやすくなる。(原)

#### 現地調査に基づく施策の抽出について

- ・ 土地利用に関する法令等、施策メニューの中には難しいと感じる施策があるのだが、この施策メニューは、今後部会等で議論して詰めていくという認識でよいか。(千葉市)

施策メニューは、今後部会で整理し、議論していきたいと考えている。(吉田)

水循環の施策を検討・実施するには部局の役割を越えたものとなるので、市役所、役場内の関係部局で連携して実施してもらいたい。(虫明)

- ・ 畑地における施策については、施策メニューにある項目で良いと思う。(藤井)
- ・ 昭和 35 年くらいまで印旛沼で泳ぐことができたが、現在では泳げず、また親水性が悪くなっているので、親水性を向上させる施策の検討もお願いしたい。(太田)

今後、検討する。(吉田)

- ・ 生物の保全・創出を考えるには、森林や川、水田、畑、沼など部分ごとの視点ではなく、流域を一体とした視点で考えていくことが必要である。(原)
- ・ 合併浄化槽転換や高度処理合併浄化槽の導入、下水道未接続者への対応を検討すべき。未接続者については、水道料金を値上げする等の対策を取ったらどうか。(太田)

下水道接続促進、合併浄化槽整備、高度処理型合併浄化槽導入などは施策に掲げている。市町村でどのように進めていただくかは、今後の検討の中で議論していきたい。(吉田)

#### その他

- ・ 西印旛沼近くの農業用水路で、大雨の 1 日後に COD が上昇する現象が見られた。この原因を教えてほしい。(高柳)

様々な要因が考えられると思うが、具体的な調査データがないので、明確に言うことは出来ない。(味埜)

- ・ 流域の上流で廃油を側溝に流しているという話を聞いたことがある。魚が油くさくなると懸念されるため、ヘドロ調査をお願いしたい。(椿)

調査よりもむしろ、そういうことが起こらない気運を高めることが大切ではないか。(虫明)

- ・ 貯水池化により洪水時の負荷が沼内に留まるようになり、水質が悪化した。(清水)  
印旛沼には水源としての役割もあるので、水門を開放するとなると難しい面もある。(虫明)
- ・ 千葉県で一斉に実施している地下水汚染の調査を、印旛沼流域内では実施されているのか。(藤井)  
印旛沼流域内では実施していないが、印西市の手賀沼流域内では実施している。(小川)
- ・ 水循環の施策の実施と並行して、NPO や市民の取り組みを、県にも公式に認めていただきたい。(高柳)

- 以上 -